

No. 84

2011年(平成23年)

7月1日

発行

浄土真宗本願寺派

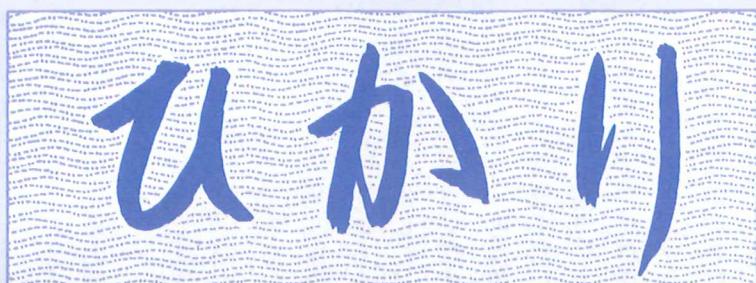
和歌山教区日高組

責任者

鈴木悟峰

名号不思議が言葉にうかぶ  
言葉すれども姿が見えぬ  
言葉の中に姿あり

妙好人  
浅原才市翁



## 親鸞聖人750回大遠忌法要

阿弥陀經に聞く

「舍利弗、もし善男子・善女人ありて、阿彌陀仏を説くを聞きて、名号を執持すること、もしさ一日、もしは二日、もしさ三日、もしさ四日、もしさ五日、もしは六日、もしさ七日、一心にして乱れざれば」  
この文面だけを読んだら、一日一日と毎日お念仏を唱えて励めという風にとれる。

「若一日若二日から一心不亂」となにやら滝にうたれて、称えているように思えます。

一つは、お念仏を相対的にみて、その念仏を自力で修行するとみる。ほかの行よりも素晴らしいという考え方です。または、真心を込めてとか、称える人の心情をいうようなお念仏になるのです。

二つには、自力の行者は修行や自力念仏をすることによって信心を固めます。南無阿彌陀仏の一心不亂の信心が説かれています。真剣なお念仏でも自力が入るとダメになる。真宗のお念仏は、仏になれる身を喜ぶ感謝のお念仏です。

三つは、臨終来迎と関わります。アミダさまの救いには来迎の必要はありませんが、自力の行者は、必ず救われようと自力の行をあてにするのです。自力の行ですから、どこまでいっても不安が残ります。そこで臨終に来迎を仰いでその証拠を求めるのです。同じ念佛でも、自力の念佛ですから、どれだけ称えても不安が残るからです。すぐに結果を求め、どうだつたかと知りたがる。

四つめは、お念仏がほかの修行よりも素晴らしいことを示すことです。お念仏が素晴らしいと言うことはわかるけれど、「素晴らしい」だけではすまないのでしょうか。  
以下次号へ。

(永原)

佛法がひろまるようにと  
中が安穏であるように、  
聖人は「仏の教えに出  
会つて、みずから往生  
は間違いないと思う人  
は、仏のご恩を心に思  
い、それに報いるための  
心を込めて念佛し、世の  
福法がひろまるようにと

す。

聖人は「仏の教えに出  
会つて、みずから往生  
は間違いないと思う人  
は、仏のご恩を心に思  
い、それに報いるための  
心を込めて念佛し、世の  
福法がひろまるようにと

忌法要のご縁に遇わせて  
いただきました。  
満堂の御影堂で法要の  
始まりを待つ間、ご法要  
のスローガンでもあります  
聖人のお言葉『世のな  
か安穏なれ』をあらため  
て考えておりました。

このお言葉は、聖人が  
都へ戻られてから、関東  
のお弟子方である性信房  
(しょうしんぼう)に宛  
てた手紙の中に出てきま  
す。

聖人は「仏の教えに出  
会つて、みずから往生  
は間違いないと思う人  
は、仏のご恩を心に思  
い、それに報いるための  
心を込めて念佛し、世の  
福法がひろまるようにと

思われるのがよいでしょう」とお示しくださっています。

七五〇年あまり前、不  
安と争いの時代にあつて  
の念佛者の目ざす道を示  
されたお言葉であります。

当時に比べれば、豊か  
で恵まれた時代にくらす  
私どもですが、いかがで  
しようか。今の平和で豊  
かな暮らしが当たり前と  
思つてはいないでしよう  
か。自分ばかりの安穏な  
くらしに満足はしていいな  
いでしようか。

一人一人がみずから  
生かされたいのちの大切  
さを思うとともに、同じ  
いのちを生きている方々  
を思うことがあらためて  
求められているのではな  
いでしようか。



(亀井)

り、世の中が安穏である  
ことを願われ、このお言  
葉をお示しくださったの  
です。

**法 悅 ウ イ ズ**

さる5月12日にご誕生になった、新門さま、新裏方さまご夫妻  
のご長男のお名前を、次の1~4の中から1つ選んで、その番号  
を書いて下さい。

- |       |       |
|-------|-------|
| 1 真さま | 2 敬さま |
| 3 淳さま | 4 照さま |

83号の正解は、2の「世のなか安穏なれ」でした。正解者の中から、  
次の方に粗品を進呈いたします。

由 良 町 畑 中 宏 之 様	由 良 町 川 口 ア ヤ 子 様
由 良 町 島 田 常 美 様	由 良 町 中 崎 工 ミ コ 様
由 良 町 浜 崎 香 代 子 様	由 良 町 濱 上 由 美 子 様
由 良 町 濱 口 直 子 様	由 良 町 磯 田 富 三 子 様
由 良 町 市 川 あ や 子 様	由 良 町 井 ノ 口 静 子 様

官製ハガキにクイズの答え、  
住所、氏名、年齢、電話番号、  
所属寺、ご感想、御意見等を明記の上、

〒649-1221  
日高郡日高町志賀3851  
善宗寺内 組長事務所  
までお送り下さい。

※抽選で10名の方に粗品を  
差し上げます。

※締め切り日  
平成23年9月30日必着

※発表は次号



日高組寺院めぐり

**妙願寺**（日高町志賀）  
第十五代住職

慶安三年（一六五〇）開基、初代住職了宗法師を迎えた道場（どうじよう）ができる。正徳五年（一七一六）二月、阿弥陀如来木像を本山より下付され、功徳聚山妙願寺なる寺号公称を許可。

九年四月に大屋根の修復を行つた。

現在の住職は、十五年間の福祉施設勤務を経て、平成十八年より居宅介護支援事業所、妙願寺ケアサポートともしごを運営、地域の福祉拠点として介護支援活動をしている。また寺院の備品「車椅子」三台を地域住民に貸し出ししている。平成十九年より日高町人権擁護委員、平成二十四年より保護司。



組織団体  
門徒総代会  
(五)名・仏  
教婦人会・仏  
教壮年会(定期活動なし)  
日曜学校(毎月一回開校)

年間法要行事  
修正会・御正  
忌報恩講・物  
故者追悼法  
要・春秋彼岸  
会・灌仏会・  
降誕会・盂蘭  
盆会・在家報  
恩講・除夜会

京都、西本願寺に於いて勤修されている親鸞聖人七五〇回大遠忌法要に日高組は四月十日（日）と十六日（土）の二班に分け、組内各寺院から総数三九五名が参拝した。

五〇年に一度のご勝縁、共々に親鸞聖人のご遺徳を偲びつつ、お念佛申すご縁をいただきました。

# 親鸞聖人七五〇回大遠忌法要

日高組通信

☆行事報告

・日高組「定期組会」  
三月二十六日(土)

故者（四十名）の追悼  
法要が勤修され、紀南  
組善福寺住職・藤俊乗  
師のご法話を聴聞しま  
した。

卷二

が開催された。

## 平成二十二年度の事業・収支報告、平成

算について審議承認された。

なお、平成二十三年  
度の組三役・組織部の  
部長の移動はありませ  
ん。寺族婦人会部の会  
長に光尊寺坊守さんが  
就任された。

・総代会・総会・研修会

四月二十九日

代多数が参加し定期総会が開催された。総会後、円行寺住職による「淨土真宗の生活信条」を基にしたご法話をいただき、念佛者としての心得を新たにしまし

・日高組「子どもを集  
い」キッズ・サンガ  
今年も「子どもの集  
い」を開催します。八  
月二十日を予定してい  
ます。参加対象者は概  
ね小学生です。  
詳細は後日、各寺院  
にご案内いたします。

